

# チャート丸分かり マニュアル



著  
小林憲司

## ■はじめに

本マニュアルは、著作権法で保護された著作物です。

本マニュアルの取り扱いについては、以下の点にご注意ください。

### 【著作権について】

本マニュアルの著作権は、株式会社ケンコンサルティングに属します。著作権者の書面による事前の許可無く、本マニュアル等の一部、または全部を印刷物、Eメール、電子書籍、電子ファイル、ホームページ、ウェブサイト、ブログ、SNS、ボイスレコーダー、テープレコーダー、CD や DVD の記録媒体等、あらゆるデータ記録手段により、複製、転載、流用、公開、貸与、売却（オークションやインターネットショップなどでの転売等を含む）公衆送信等を行うことを禁止いたします。著作権の侵害を行った場合、5年以下の懲役または500万円以下の罰金に処せられます。

### 【FX および株式投資のリスクについて】

当マニュアルの情報提供はお客様の利益を保証するものではありません。FX 取引や株価指数先物取引等の取引に際しては、相場の変動や取引会社の信用状態の悪化等により、損失を生じるおそれがあります。また、FX 取引や株価指数先物取引には取引業者の売買手数料がかかります。取引を開始する際または継続する際には、そのリスクについて十分にご理解の上、行ってください。

### 【免責事項および責任範囲について】

本マニュアル等で提供される情報は、外国為替証拠金取引や株価指数先物取引等をトレードする際の目安を提供するものであり、その情報に基づいたトレードでの利益を保証するものではありません。本マニュアル等の情報に基づいて、上記の取引を行われたとしても、その投資結果に関しては、あくまで、ご購入者様ご自身の自己責任とさせていただきます。従いまして、本マニュアル等の情報に基づいてトレードされた結果により、ご購入者様にいかなる損害が被ろうとも、当方は一切の責任を負わないものとします。また、トレードの際には、上記の内容、および、ご購入者様の資金管理等も十分考慮の上、最終的には、ご購入者様の己判断において行っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

**F<sub>x</sub>**で勝ち続けている人は言うまでもなく

自身のトレードルールを確立し、日々淡々とトレードをこなし精神的にも安定しています。

長年の試行錯誤の結果、

根拠あるルールを確立しているので、決して勘に頼ったり、感情のおもむくまま買いに走ったりは絶対にしません。

チャートを（視覚的に捉えて）見たままで判断できるので、安心してトレードができています。

なので、自身のトレードに自信が持てない人は、

一刻も早くチャートを正しく理解する必要性があると言えます。

これからお話することは、

筆者が長年の試行錯誤の結果、

見出したオリジナルのチャート分析です。

オリジナルと言えども決して的外れなことは言及していませんし、その有効性は実証済みであります。

ぜひ、あなたのチャート分析のお役に立てれば幸いです。

それではしばらくの間、  
お付き合いの程よろしくお願いします。

ところで、

あなたはトレードの際にどのような  
テクニカルチャートを使っておられますか？

移動平均線、ボリンジャーバンド、MACD、RSI、  
一目均衡表、ストキャスティクス、フィナボッチ等々、  
世の中にはあまたの種類のテクニカル指標が存在します。

どれが良いのかと言うと  
使う方の好みもありますので  
一概には結論づけられませんが、

筆者が長年の試行錯誤の結果、  
体得した最強と確信するテクニカル指標を3つに絞って、  
当マニュアルではご紹介したいと思います。

その3のテクニカル指標とは、

- 移動平均線
- RCI
- ストキャスティクス

です。

3つともごくありふれたテクニカル指標ではあります。

ところが、筆者の場合、その「使い方」が全く違います。

誰も教えてくれない  
誰もそのような使い方をしない  
オリジナルな使い方をお伝えします。

### 【移動平均線】

移動平均線のみを使って  
トレードをしている人はたくさんいます。

実際、移動平均線だけを使って  
勝ち続けている人もたくさんいます。

どうやったら移動平均線だけで勝てるのか？  
期間の組み合わせ？  
何本表示させる？  
設定は？

次の画像は、ごく一般的な移動平均線である  
5日線、25日線、75日線の3本で表示したチャートです。



(ドル円 1 時間足)

移動平均線でもっともよく使われる手法としては、

25 日線が 75 日線を上抜く

ゴールデンクロスでの買いエントリー

そして、

25 日線が 75 日線を下抜く

デッドクロスでの売りエントリー

があります。

上の画像でも概ねそのセオリーは機能はしているようです。

でもちょっと分かりづらいですね！

筆者はもっと見やすく、

分かりやすい方法はないかと考えました。

次のチャートをご覧ください。



5 日、25 日、75 日という固定観念的な  
移動平均線をなぜ使わなければならないか  
という疑問をまず筆者は抱きました。

5 日、25 日、75 日ではどうしても、  
「ダマシ」のような場面がよく出てきます。

この「ダマシ」を取り払うため、  
ありとあらゆる複数の線をチャートに引いてみました。

過去のチャートの動きに合わせ、日々検証を繰り返し  
そうして、**100%**ではないものの最大公約数的により  
正確と思える移動平均線の設定値というのが見つかりました。

それが上の画像の多本数の移動平均線の束（帯）です。

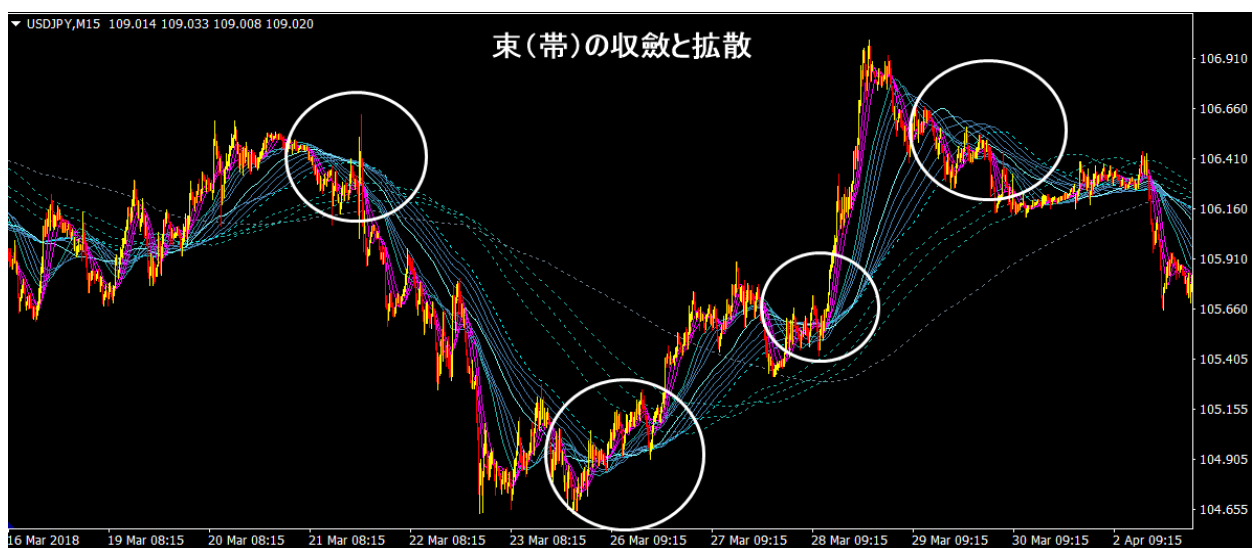
見ていただきたい一番のポイントは、  
複数の線の束（帯）です。

次の画像をご覧くださいと一目均衡表の「雲」のように『収斂（しゅうれん）』と『拡散』を繰り返しているのがお分かりいただけると思います。

「帯」は上昇相場の途中でも拡散だけではなく収斂もありますし、下落相場でも同じです。

上昇相場でも下落相場でも移動平均線はその束（帯）の収斂と拡散を繰り返しながらトレンドを継続していきます。

また、トレンドの反転の時には「帯」がまるで「メビウスの帯」のように裏返るのが見て取れると思います。



この束（帯）が裏返るポイントが、相場の「転換点」です。

一番簡単に相場の「波」や「リズム」を見ることができるのが、この移動平均線の束（帯）を見る方法なのです。

この収斂と拡散がまさに

「波」であり「リズム」なのです。

波がうねりながらトレンドが継続されているのがお分かりになると思います。

そして、

チャートの値動きが「帯」の反対側に出た時が、それまで続いていたトレンドの終焉です。

利益を得るのに一番簡単なのが、収斂した状態から拡散するところを取りに行くことです。

トレーダーが狙うのも

この収斂から拡散への転換のところですよ。

この原理原則が分かっているだけで、移動平均線だけでも十分トレードができるということです。

## 【RCI】

RSIの方が有名かもしれませんが、RSIではなく RCI です。

あまり聞きなれないテクニカル指標かもしれませんね。

RCI（Rank Correlation Index の略）は、

「順位相関係数」と呼ばれています。

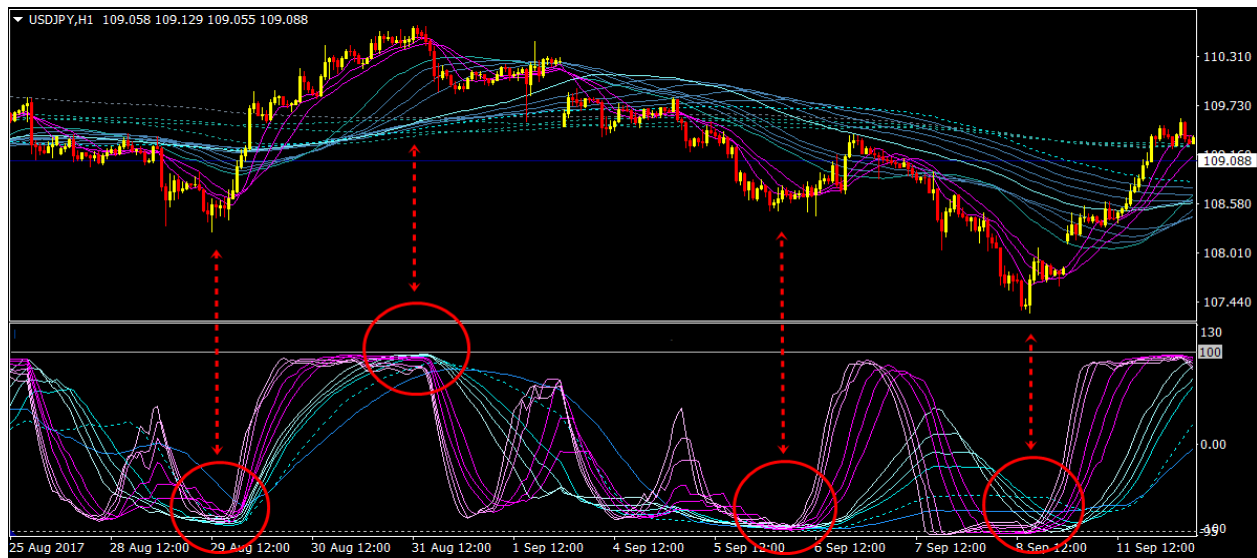
ある期間内の値（終値）に上昇順位をつけ  
その期間の日数との相関関係を指数化したもので、  
「上がり始め」「下がり始め」の時期と  
タイミングを捉える指標です。

次のチャートをご覧ください。



ローソク足チャートとの一般的な  
RCI 設定（パラメーター=9）での同時表示は  
上のチャートようになり、これを見ても  
ワケが分かりませんので、ほとんど役に立ちません。

では、次のチャートではどうでしょうか？



ローソク足チャートは同じものですが、  
下段指標の RCI の複数線の密集点が  
ローソク足での高値・安値の転換点のポイントと  
ほぼ一致していますので、一目でここが転換点  
というのがお分かりいただけると思います。

R C I 自体は古典的なありふれた指標で、  
先のチャートのように 1 本表示では  
視覚的には判断が難しいものです。

しかし、10 本前後の重ね表示にすると  
かなり直感的に、視覚的に理屈抜きに  
値動きの転換点がリアルタイムで確認できます。

視覚的に捉えた特徴から言うと、  
他の古典的指標でダマシも多い  
MACD や RSI 等と比較して

R C I には、次の特徴があります。

相場転換点において、

大きい緩やかなカーブと小さい鋭いカーブが  
折り返し点で必ず規則的に交差する

つまり、

下のボトムから上向きに上がる時に、  
緩やかな遅いカーブを速い鋭いカーブが  
見やすい形で上抜く

ということです。

R C I のパラメーター期間の異なるものを

10種類前後として複数本の重ね書きをしたとします。

すると、

非常に整然と、際立った鋭い相場の転換点では、  
移動平均線同様、メビウスの帯のように  
複数本のカーブが密着して下限、或いは上限に  
集約した形で転換を示しています。

ゆるやかな小さな相場転換では

複数線がバラけていて、特に  
長期線の RCI は充分に上限、下限に  
付き切らない形でゆるやかに推移します。

つまり、長期線を見ていれば、

相場は今上げ波動の何合目ぐらいにいるか？  
下げ波動の何合目ぐらいにいるか？

ということも一目瞭然に分かるわけです。

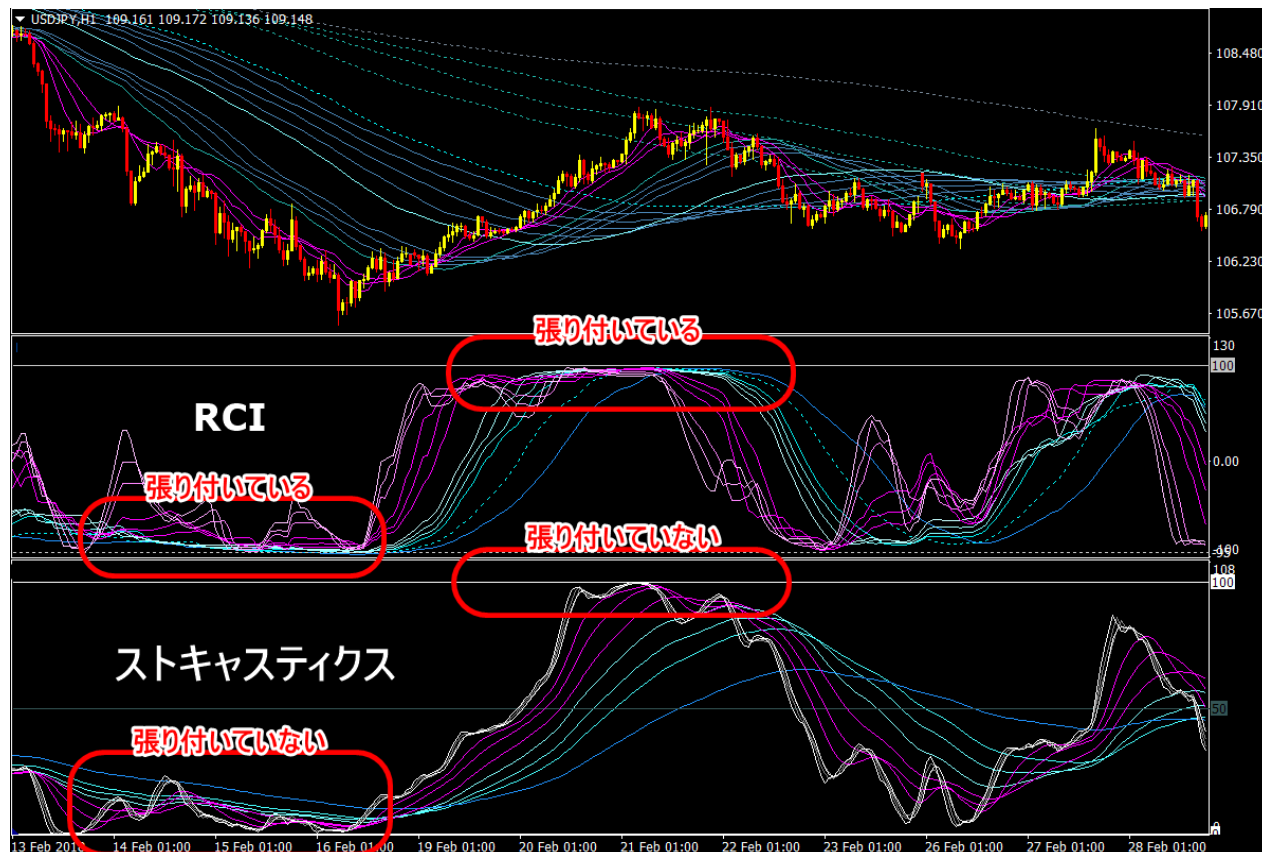
さらに、

全ての RCI 線がその上下の限界に集約して  
一点に付く時に、高い精度で転換点の  
タイミング分析として用いることができる  
ということになります。

但し、RCI を使用する上で、唯一  
注意しなければならないこともあります。

それは、強い上昇トレンド中は  
連続して上昇する傾向があるため、  
RCI が上限にベッタリと張り付き横ばい状態  
(強い下降トレンド中はその逆) となるため  
判断しづらくなります。

この欠点を補う為の  
もう一つの重要なテクニカル指標が、  
「ストキャスティクス」です。



### 【ストキャスティクス】

ストキャスティクスもごくありふれた指標です。

一般的には、3本線の表示です。

しかし、移動平均線や RCI 同様に

10本前後の重ね表示にすると  
視覚的に理屈抜きに相場の転換点が  
リアルタイムで確認できます。

先のチャート画像の通り、RCIは上下に早く張り付いてしまいます。

対してストキャスティクスは上下に張り付くことはなく両指標を同時に見比べることで、より天井や底値の判断がしやすくなります。

RCIの張り付き状態を解消するには上位足表示にすることですが、エントリーポイントが難しくなったり、エントリーチャンスが長期間発生しないといった問題が出てきてしまいます。

しかし、

ストキャスティクスと合わせ分析することによりエントリーポイントの判断が分かりやすくなります。

メリットが明らかになったストキャスティクスですが、

まずは上昇相場なのかそれとも下降相場なのか

を判断できるラインの順番があります。



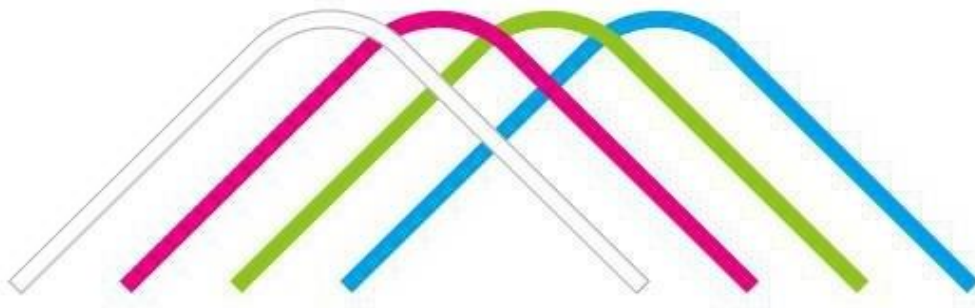
- ・ 上昇相場：白、ピンク、緑の全てのラインが青より上にある。
- ・ 下降相場：白、ピンク、緑の全てのラインが青より下にある。

上昇相場か下降相場かの判断は  
前述の通りなのですが、

上昇相場から下落相場へ転換する場合、  
転換点はどうなっているかといいますと

下記の振る舞いを見せます。

- ① 白(超短期線)が上限に接し
- ② 白がピンク(短期線)を下抜き
- ③ ピンクが緑(中期線)を下抜き
- ④ 白ピンク緑の全てが青(長期線)を下抜き下落相場に入ります。  
(この段階で、全てのラインが青の下に位置します)



下落相場から上昇相場への転換は、  
全くその逆となります。

今回、当マニュアルでご紹介した  
3つのテクニカル指標

「移動平均線」「RCI」「ストキャスティクス」

いずれも複数本を重ね表示することにより  
メビウスの帯のような『拡散』と『収斂』を  
繰り返しますので転換点が視覚的に見やすくなります。

このような組み合わせのチャートとして使うと  
更に転換点認識の確実さを高めることができます。

複数の RCI やストキャスティクスの線が  
密集し交差して底値から立ち上がり

転換点と見られる時

また、

移動平均線の帯の上にローソク足が出た時

これらは明瞭に買い転換。

逆に、

ローソク足が移動平均線の帯の下に入って  
RCI・ストキャスティクスが上限の密集から  
下げて来る時は

明瞭に天井を打ったと見なすことができます。

テクニカル分析の重要ポイントをまとめると

- ・ 転換点が明瞭で見易いこと
- ・ 騙しが少ないこと
- ・ タイミングが遅れないこと

この3つに尽きます。

数ある古典的テクニカル指標の中にあって

「複数本数の RCI とストキャスティクスの重ね表示」

だけは、明らかに違う有効度を持っている

ということはかなり自信を持って強調できます。

少なくとも、他の古典的指標を  
何本重ね書きしてみたところで、  
これほど驚くべき効果は決して  
得られません。

これら3つの重ね表示の指標を徹底して習熟すれば  
相場の転換点・天井・底値が分かるようになり、  
必ずや有効な鍵が掴めると思います。

あなたの検討をお祈りします。

小林憲司

追伸：

このマニュアルは簡単に  
シンプルな内容にしたので、  
具体的なことが欠けていた  
と感じてしまいます。

見て分かるように

と言った手前、  
マニュアルだけでは  
その効果を体感できない...

そう思いました。

そこで、実際に、  
あなたに体験してもらい  
分かりやすいかどうか  
ご自身で判断してもらえれば、  
話は早いなと考えました。  
なので、私の方から

「移動平均線のテンプレートファイル」

を差し上げます。

マニュアルを読んだだけでは、  
結局、理屈は分かるが具体的な  
設定値は分からずじまいです。

例えば、複数線一本一本の  
設定値（パラメーター）は  
お伝えしておりません。

この設定済みのファイルを  
今あなたがお使いになられている  
メタトレーダー（MT 4）に  
インストールすれば OK です。

※ファイルを指定フォルダに張り付けるだけ

すると、マニュアル通りの  
複数線の移動平均線付き  
ローソク足チャートが表示されます。

百聞は一見に如かず

とは言うもので、実際に  
あなたに体感してもらってこそ  
マニュアル本来の意味が  
あるのではないかと思います。

マニュアル配って

「ハイ、終わり」

ではありません。

移動平均線のテンプレートファイル：  
[http://shozai.info/tensoko/MT4/ma\\_template.tpl](http://shozai.info/tensoko/MT4/ma_template.tpl)

追伸 2：

お疲れ様でした。

疑問にもたれたことやご質問あれば、  
下記のサポートで受け付けております。  
お気軽にご相談ください。

可能な範囲内でお答えさせていただきます。

最後まで目を通してくださり、  
ありがとうございました。

#### ■ サポート

お電話：03-6411-9123

(受付時間 平日 9時～17時)

メール：info@shozai.info

#### ■ 会社情報

会社名：株式会社ケンコンサルティング

代表者：小林憲司

所在地：東京都世田谷区成城 8-31-9-303



#### 小林憲司プロフィール/

数社で海外事業関連業務に従事した後、1996年に現会社を設立。  
インターネットのホスティング事業を経営する傍ら、株式投資  
に興味を持ち、2005年12月から株投資を始めるものの翌年初め  
に起こったライブドアショックによりビギナーズラックすら得  
られず大敗を喫するが、これを機にチャートの猛勉強を始める。  
当初は自分自身の為のチャート探しが目的であったが「負け組」  
と言われる投資家達の役に立てばという思いから、2012年から  
自身でチャートの制作に携わる。  
現、株式会社ケンコンサルティング代表取締役。